

令和4年度 一貫作業システム

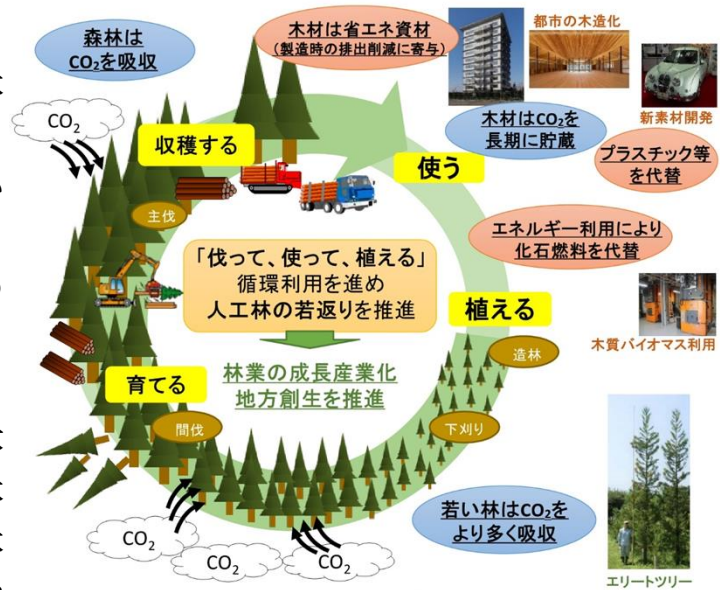
現地検討会の開催

若い木は二酸化炭素を吸収し、のびのびと成長します。そして、成長した木材を建設物等として利用することで、炭素の固定と資源利用を両立しています。資源の持続的利用の観点からも、地球温暖化対策の観点からも、適切に木を切り、新たな苗木を植えるサイクルは非常に重要です。

しかし、材価と比較しても再造林には多額の費用がかかるため、伐採されても再造林がなされない山林も多く見受けられます。

また、林業の現場は地形等の要因から人力に頼る作業が多く、人力的にも負担となっています。

そのため、林野庁や関係団体では、低コストで実施できる造林体系を確立するため、伐採造林の一貫作業についての検討と研究が継続して進められています。



カーボンニュートラルへの森林分野の貢献

(林野庁 HP より抜粋)

当支署においても、令和4年9月29日(木)に管内の各市町村や林業事業者等の担当者を参集し、東成瀬村に位置する長倉国有林にて「一貫作業システム現地検討会」を開催しました。



伐造一貫作業を行う現地にて 開会の挨拶と現地の概要説明

検討会では始めに、会場となる皆伐実行箇所を実際に歩きました。一貫作業を行っている長倉国有林では造林までの作業が連続で行われており、綺麗な伐採跡地が広がっております。



伐造一貫作業箇所 長倉国有林 1016 林班へ小班（植栽予定本数:1950 本）

また、受注者である北日本索道株式会社様からコンテナ苗や、植付を行うための穴をあける道具である「ディブル」の説明を受けた後、コンテナ苗の植栽体験を実施しました。

今後も国有林という広大なフィールドを活用し、簡単に植栽ができるコンテナ苗や、伐採から造林までの一貫作業による、スムーズで低コストな山作りについて広く検討し、未来の森林に貢献して参ります。



コンテナ苗の状態を確認



ディブルを用いた植栽を体験